



波紋



ホームページは
ここから

子どもの思いを受けとめた支援を

- 「子どもの声」を生かした取り組みの推進
- 「天馬航行」自由に伸びる子どもたちの支援
- 継続・安定した運営に向けた、活動の見直し

本年度もどうぞよろしく願っています。

認定特定非営利活動法人 教育活動総合サポートセンター

理事長 田中真喜男

発行所 教育活動総合サポートセンター
〒213-0033 川崎市高津区下作延5-11-8
TEL: 044-877-0553 FAX: 044-877-0980
E-mail: support0731@luck.ocn.ne.jp
ホームページ: <http://www.kks-support.or.jp/>
印刷 西桜印刷株式会社 TEL: 03-3568-2543

認定特定非営利活動法人
教育活動総合サポートセンター
広報紙「波紋」 第23号
発行人 田中 真喜男
題字デザイン・山口正勝

学校の新年度開始と共に、サポートセンターも活動を始めました。この4月1日で「川崎市子ども」の権利に関する条例」は施行から25年となりました。その3年後に設立されたサポートセンターでは様々な状況にある子どもたちを支える活動を継続してきました。しかし、昨年報告された子どもたちを取り巻く状況は、不登校の児童生徒数が全国で35万人を超え、いじめ・虐待・自死・暴力行為などほとんどの項目で川崎市でも増加を続けています。改めて、私たちの活動の意義を実感しています。サポートセンターの各事業においては、従前通り順調に取組を継続することができ、5年毎に実施される「認定」の更新も無事に終了しました。また、情報資産をリスクから守るためのセキュリティ対策にも着手し始めています。一方では、学習支援や外国につながる子ども向け寺子屋事業で希望者の増加にどう対応するかが課題となっています。さらに、将来を見据え、安定した継続性のある経営に向けて各事業の運営態勢の

見直しや活動を支える人員不足への対応も急務となっています。今年度は、「午年」でもあり、天馬のように自由に駆け回る子どもたちを支えるために、子どもの声を聴き、保護者の思いを受けとめていきたいと思っています。所員一同、本年も努力してまいりますので、かわらぬご支援・ご協力をお願い致します。



事業計画

本年度も「子たちに力を！」の理念に基づき、定款に定められた各事業をより効果的に進めていきます。また、社会情勢の変化による諸課題にも着実に取り組んでまいります。

①教育・福祉に係る相談等支援に関する事業

ア 教育・福祉相談事業

イ 神奈川県フリースペース等相談事業 (自主事業)

ウ サポートセンター保護者の会事業 (補助事業)

②適応指導に関する事業
ア 子ども包括支援事業 (自主事業)

(子どもサポート南野川)

イ 子ども・若者等支援事業
(子どもサポート旭町)

③学習支援に関する事業

ア 学習支援事業 (自主事業)

(子どもサポート宮ノ下)

イ 学習支援・居場所づくり事業

川崎区 (学習支援 川崎教室)

ウ 学習支援・居場所づくり事業

幸区 (学習支援 幸教室)

エ 学習支援・居場所づくり事業

幸区 (学習支援 日吉教室)

オ 外国につながる子ども向け寺子屋事業

外国につながる子ども向け寺子屋事業

カ 外国につながる子ども向け寺子屋事業

キ 夏休み特別講座

ク (たのしいキッズセミナー)

科学教育の普及・啓発助成事業 (サイエンスキッズ・出前科学教室) (助成事業)

④特別支援教育に関する事業

ア 中原区子どもの発達支援事業

(中原区保護者ミーティング)

⑤体験活動等に関する事業

ア あさお体験広場に係る運営管理業務 (のびのびファーム)

⑥研究研修等に関する事業

ア 自主研究

イ 研究報告会・不登校シンポジウム (自主事業)

⑦青少年の健全育成を図るための環境整備に関する事業

イ 子どもの権利学習推進事業

⑧講演会等の企画運営に関する事業

ア 広報・文化活動事業

(文化講演会・ホームページ管理運営) (自主事業)

⑨文化・スポーツ活動の推進に関する事業

ア 大山街道ふるさと館管理運営事業 (共同運営)

イ 友だちに薦めたいこの1冊コンクール審査 (協力事業)



ア 臨時的任用教員等研修事業
イ 教育活動サポートセンター配置事業
ウ 特別支援教育サポート事業
エ 営繕業務
⑧講演会等の企画運営に関する事業
ア 広報・文化活動事業
(文化講演会・ホームページ管理運営) (自主事業)
⑨文化・スポーツ活動の推進に関する事業
ア 大山街道ふるさと館管理運営事業 (共同運営)
イ 友だちに薦めたいこの1冊コンクール審査 (協力事業)

大山街道ふるさと館

川崎市生涯学習財団との共同運営事業です。今年度は、企画展を年6回、企画展関連講演会や市民ミュージアムと連携したイベントやワークショップを年6回、ミニ企画展は7回実施します。また、高津・大山街道探求講座を年3回、大山街道学習講座を座学も入れて6回、高津のまち歩き講座を2回、昨年からは始められた大山街道歴史散歩も行います。地域活性化事業では、秋と春のふるさと館まつり、ぶらり散歩やまちのマイスター講座で地域交流を深めます。子ども探検クラブや出前授業、ふるさと発見講座、自由研究相談等、地域学習の支援もします。

(石川)

臨時的任用教員等研修事業

今年度川崎市で初めて採用された臨時者の中・高校での教科一人配置校の初任者(正規職員)を対象に巡回研修を行っています。また学校長の要望により、経験のある臨時者や非常勤講師に対しても本研修が適用されています。

研修サポーターが学校に伺い、授業を見た後、様々な視点から臨任者等に対して助言を行っています。この研修は年4回、中学校の技能教科、高校の専門教科には年5回行っています。研修の機会が少なく臨時者等にとって非常に有効な研修となっています。

(前川)

学校サポーター配置

川崎市立小学校・中学校・高等学校の指導補助者(サポーター)にかかわる配置事務や研修を行う、川崎市教育委員会からの委託事業です。

大学生、教員経験者、地域協力者かなる630名を超える方々が、さまざまな教育活動や特別支援教育の面でサポーターとして、市内の各小・中・高等学校に配置され、それぞれの学校の状況に応じた支援活動を行っています。

各学校からは、サポーターへの感謝とともに、この活動に対して大きな期待をいただいています。

(射越)

のびのびファーム

ゆうゆう広場あさお敷地内にある体験農園「のびのびファーム」活用総合教育センターからの委託事業です。

農業ボランティアの方々の指導の下、近隣の小学校2校と中学校支援級の子どもたちが、ジャガイモ・サツマイモ・大根などの種まき・植え付けから収穫まで食育教育の一環として年間を通して学んでいます。天候により野菜の生育は左右され、ここ数年、ジャガイモ、サツマイモ収穫時、熱中症の危険があり、収穫体験日の調整が大変です。大根の収穫体験では小さな種から大きく育った大根に目を輝かせ大喜びでした。

(前田高)

子どもの権利学習推進事業

「川崎市子どもの権利に関する条例」制定から二十五年が経過しました。条例の認知度が低下していることもあり、もう一度「子どもの権利学習」を推進するために教育委員会より委託された事業です。まず、希望校の担当者を集めて権利学習の趣旨を確認し、児童生徒の実態に合わせたプログラム開発を実施しました。授業実施日には、授業を参観して、指導助言も行いました。「子どもの権利」の理念普及が不登校児童生徒の減少にもつながると考え、今後各学校の「子どもの権利学習」をサポートして参ります。

(田中)

令和7年度自主研究

私たちが、令和4年度に「子どもの声から不登校を考える」というテーマで研究を始めてから4年目を迎えます。実は、「子どもの声を聞く」という営みは、令和元年度から2年間の研究でも取り組んでいた内容です。

令和6・7年度の研究では「子どもの声を聞き」ながら、その集大成として、一人ひとりの子どもたちの声に寄り添った多様な支援のあり方を研究してきました。

(山田)

研究報告会から

「子どもに寄り添った多様な支援の実現に向けて」というテーマで、子どもの不安に寄り添い、安心を広げる支援について研究を進めています。令和4年度からの研究では、文部科学省が行ってきた「問題行動調査」からは、大人が考える問題点ばかりで、子どもの姿や気持ちが見えてこない

参加がありました。

初めにサポーターセンター田中理事長の主催者挨拶に続き、川崎市総合教育センター所長 大野恵美様にご挨拶をいただきました。

続いて、研究部員より令和6・7年度の研究について報告がありました。研究協議では「子どもの声を聞く」ことや学びの多様化の必要性などについて、保護者、学校の教職員など様々な立場で子どもに携わる方から活発なご意見をいただきました。

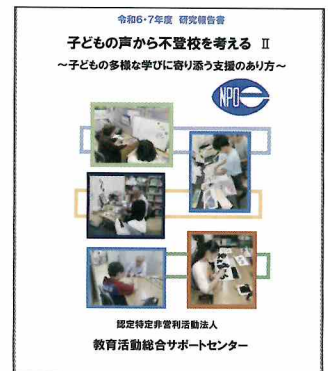
後半は、これまで研究を支えて

くださった岡田守弘先生に「わたしと不登校」というテーマで講演をいただきました。研究についての指導講評に続き、先生ご自身の歩みとともに「不登校」の変遷やこれからの方向性について貴重なお示唆をいただきました。その後の質疑ではたくさん意見や質問を会場からいただきました。

最後に頂いた感想の一部をご紹介します。

「研究報告の内容にも岡田先生の講演にも、不登校の当事者や保護者、支援者の悩みに応えるヒントが詰まっていると感じました。」

「子どもの声を聞くことは、今後の自分の教育活動においても重視していきたいと思っています。」(保崎)



教育相談案内

044-877-0553

★不登校や勉強が分からな
いなどに悩む子どもやその
保護者が多くなっています。
その子どもや保護者が抱
えている困り感、不安など
について、経験豊かな
スタッフが子どもの気持ち
を大事にして支援をしてい
ます。また、安心できる居
場所、自分に合う学びがで
きる場所としての機能も発
揮しています。学習は、
小・中学生を中心に、子ど

ものニーズに応じて一対一の支援を行っています。相談や学習支援を希望される方は、お気軽にお電話やメールをください。

電話受付 月～金曜日 9時～17時

★保護者同士で情報交換をし合ったり、不登校体験者から話を聞いたりする「サポーターセンター保護者の会」も開催しています。

(井上)

学ぶ楽しさ わかる喜び 元気いっぱいの子どもたち

センターでの僕の工作

僕は、宮川先生と図工でビー玉迷路や、模型など様々なものを作っています。僕は工作をすることが大好きなので、とても楽しんで取り組むことができています。作っているときは、イスで遊んで息抜きしたりしながらやっています。ほかの人の作品も参考に構想し、作る作業が一番楽しい時間です。今は、ビー玉迷路を造っています。なかでもジグザグに悪戦苦闘中です。(小5 K・Y)

自己満の鉄道模型

できるだけ実物に近い鉄道模型が欲しかった。これがサポートセンターで作れることが楽しく、嬉しかった。



昨年秩父へSLを見に行った時に作りたくなり、始めた。難しかったのは、車輪の前後する部分だ。美しくできた配管部分が気に入っている。

完成して嬉しかった。

(中3 U・Y)

サポートセンターに通った日々

私は、去年の4月に川崎市に来ました。学校でうまくなじめずに不登校になってしまいました。勉強に対しての意欲もなくなっていました。その時にサポートセンターがあることを知り、通ってみることにしました。

先生が、分かりやすく、ていねいに教えてくれて、勉強の楽しさを感じました。

来年は中学生になるので、中学では友達も作って楽しい中学校生活を送りたいです。

(小6 Y・R)

ポスト作りを通して

今回、技術の先生と一緒にポスト作りを行いました。最初は形を整えるのが難しく思うように作るのが大変でしたが、先生の説明を聞きながら作業を進めることで、少しずつ形にすることが出来ました。

(中2 D・T・D)

居場所作り

息子が行き渋りを見せ始めたのが小3の頃でした。4年生になり不登校になりました。そこから必死に、息子が安心して過ごせる居場所を探し始めました。見つかったのが、サポートセンターでした。面談を経て、通うことにはなったものの外に出すまでが大変でした。センターに着いて入室しても不安から親から離れられずにいました。が、寄り添いしてくれた先生のおかげで数ヶ月を経て離れることができ、今ではあの頃が嘘のように

に楽しく通っています。そこからもう一つ居場所を作りました。S学園のフリースクールです。そしてそこからのステップアップで、何と在籍校へ週2ではありますが行けるようになりました。とにかく毎日どこかへ行く、を目標に必死でした。春からはS学園の中学へ通います。これらもひとえにセンターの先生方のおかげです。

(保護者 K・M)

どんな素材からでも工夫次第でよい形にすることが出来ることを学び、ものづくりの楽しさを感じました。

完成した時には、自分が細かい作業が苦手ということもあり、良い達成感を感じ、とてもとても良い経験になりました。

(中2 M・S)

バレーボールにてあつて

バレーボールを始めたきっかけは友達にさそわれてバレーボール部に入った。バレーボール自体が好きで、みんなと「遊ぶ」という感じが好きだ。練習はきついけど、この練習のおかげでジャンプ力とスピードがついた。憧れの選手が「バレーは楽しむものだ」「人のせいにはしないこと」と言った。人のせいにするのが気分が悪くなるので試合で負けることが多くなるため、人のせいにはしないことを大切にしている。高校でもバレーをがんばっていききたい。



(中3 N・A)

習字から学んだこと

一年間、私の得意である習字をたくさん書きました。習字は自分の心情がそのまま表れます。

週一回通うことで集中力を磨き、気持ちを落ち着かせてくれました。習字の実力だけでなく、先生との対話で学んだ知識も、この先の人生に活かしていきたいです。



学習支援・居場所づくり

平成24年4月、健康福祉局に生活保護・自立支援室が創設され、「子どもの学習支援・居場所づくり事業」が始まりました。生活困窮世帯の子どもたちへの学習支援を行うことで、高校進学を支援し、健全な学校生活を送り、卒業後も大学進学や就労すること、経済的に安定した生活を送り、「貧困の連鎖」を防止することを目的として計画された事業です。各教室に通う中学生が目標をもって学習に取り組み、希望する高校に進学できるように学習支援を行っています。

対象は川崎市在住の生活保護世帯等の中学生でしたが、令和元年6月から新た

公立高校	全日制	10人
	定時制	2人
	通信制	
	その他	1人
	小計	13人
私立高校	全日制	4人
	定時制	
	通信制	4人
	その他	
	小計	8人
その他（未定）		
合計		21人

に小学生を対象にした教室が開設され、さらに一人親家庭の中学生も対象になりました。今年度も、昨年度と同様に川崎区で川崎教室、幸区で幸教室と日吉教室の3教室を開設しています。各教室では、コーディネーター、学習支援専門員（教員OB）を中心に、学習サポーター（教員OBや市民、大学生等）が子どもたちの学習支援にあたっています。

令和7年度の中学3年生の進路状況は次のとおりです。（星野）

こどもサポート旭町

「こどもサポート旭町」には、子どもたちがつづけてくれた「STEP&GO」という愛称があります。不登校等の子どもたちが安心・安全に過ごせる居場所であり、自信をもって巣立っていきける場所であることを目指して、平成22年度に開所されました。令和5年度からは、子ども未来局の事業として運営しています。週4日（月・木）10時～16時、旭町こども文化センター3階で、学習・スポーツ・ゲーム・調理・創作等一人一人がやりたい事を決めて自分のペースで過ごしています。何もしないのも勿論OKです。（紺野）

こどもサポート南野川

「こどもサポート南野川」は、不登校や引きこもりの子どもたちの居場所として子どもたちが一歩踏み出す事ができるように応援してきました。自分で決める力は大切です。目標を持つて学習を頑張る子、畑の作業を楽しむ子、収穫した野菜で調理に挑戦する子、物作りで力を発揮する子、ゲームや卓球で人との関わりを学ぶ子。そのやり方は十人十色。自分が選択した活動を通して、ゆつくりと力をつけ、自信と心の安定を取り戻していくようです。緑豊かな自然も、来所する子どもたちに寄り添い励ましてくれます。（野口）

たのしいキッズセミナー

キッズセミナーは、夏休みに発展学習、体験学習、実験などを取り入れた公開講座です。4日間で午前と午後、10講座が開催され、延べ90人余りの児童が参加しました。レベルアップ算数・楽しい理科IとII・おもしろ科学の5講座、キッズパソコンの①と②などの講座が実施されました。子どもたちは、夢中になって、楽しく学ぶことができました。充実した講座となりました。参観の皆様も子どもたちの楽しそうな学びの姿を見てうれしそうに笑顔があふれていました。それらの姿は私どもの指導の活力となりました。（秋場）

サイエンスキッズ

サイエンスキッズの活動には、出前科学教室、キッズセミナーへの協力、サイエンスキッズ講座の三つの柱があります。出前科学教室では、学年全体を対象とした活動も始まり、3校で6回延べ207人の参加があり、充実した活動になりました。キッズセミナーとサイエンスキッズ講座では、延べ363人の参加がありました。サイエンスキッズは8回の講座で、例年以上の申込みがあり、参加した子どもたちの楽しく熱心に活動する姿が見られました。今年度も、自然の事物・現象を考えつつ、子どもたちと楽しい活動に取り組めます。（志村）

地域の寺子屋

平成26年、「子どもたちが夢や希望を持つて前向きに生きて欲しい」という市長の熱い思いを受け、寺子屋事業がスタートしました。

①設置目的

- ・子どもたちに様々な学習機会を提供することにより、学力向上や豊かな人間性の形成を図ります。
- ・地域ぐるみで児童生徒の教育及び学習をサポートする仕組みを作ることに、地域の教育力の向上を図ります。
- ・シニア世代をはじめとする地域人材の知識及び経験を生かして、様々な世代で学ぶ生涯学習の拠点をつくります。

②活動内容

これらの目的のもと、サポートセンターでは、今年度「寺子屋さぎぬま」で週一回の学習支援と月一回土曜日の体験活動を実施しています。

学習支援は、宿題と寺子屋プリントを済ませた後に、お楽しみ学習に取り組みます。寺子屋先生の特技を生かした、友だちや世代間の交流を図った、季節を感じた活動を取り入れています。

体験活動は、地域の団体や専門に活躍している講師を招き、低学年は保護者と一緒に様々なプログラムを行っています。七年度は、「マジック」「けん玉」「マルチドッジョール」「ユニバーサルボッチャ」「野球体験」「ボイスカウト」などの活動を行いました。（平井）

外国につながる子ども向け寺子屋

令和5年度から「外国につながる子ども向け寺子屋事業」として、幸区において東小倉教室、幸町教室を開室しています。子どもの生活言語習得には目を見張るものがありますが、教科書を読むことができて意味がわからないなどの困り感をもっています。教室では地域の市民サポーターの協力を得ながら、子どものニーズに応じて日本語や教科学習を支援します。お楽しみ会やかるた大会などを開き、楽しく安心できる居場所となるよう努めます。（堤）

編集後記

教育活動総合サポートセンターは本年度で設立23年目となります。設立当初は少人数で、手弁当で行っていたと聞いています。その後、自主事業や委託事業など、多くの事業を行えるようになり、充実した活動となりました。しかし近年、社会の情勢は変化し、価値観も多様化し、サポートセンターも様々な課題が生じています。

これからは、それらの課題に対処していくためにも、サポートセンターの原点である、設立の理念「子たちに力を、子たちと夢を」の合い言葉を忘れることなく、さらなる一歩を進めていきたいと思っています。（海老沢）